

# 産業建設グループ集約に伴い、行政組織規則の一部を「改正」 迅速かつ確実な事務執行に向け、「受付管理システム導入したものの課題も

市議会総務常任委員会が22日、行われました。テーマは総合事務所のあり方です。4月から「試行」を開始した13区（合併前の旧町村）総合事務所の産業建設グループ集約について市側から説明があり、質疑が行われました。

市は今回の産業建設グループ集約を実行に移すにあたり、行政組織規則の一部を「改正」し、総合事務所の各グループの事務分掌について、これまで使っていた「所管区域」という言葉だけでなく「担当区域」という言葉を新たに導入して整理しました。わかりやすくするためというのが理由です。

しかし、「改正」された規則の文言を読むと、「所管する事務に係わる担当区域内の他の総合事務所との連携調整に関すること」に代表されるように、わかりにくいという印象を持ちました。私は、「所管区域」という言葉をこれまで通り使い続けても法的に問題がないなら、

「上越市地域自治区の設置に関する条例」の改正を検討すべきだと主張しました。

市は今回の取り組みをすすめるにあたり、自治・地域振興課内に「連携調整室」を設置するなどの機構改革を行いました。

スタートしてからまだ3週間ですが、市ではこの間、「窓口事務が迅速かつ確実に行われている」「職員による地域情報収集の取り組みが始まった」などと成果を強調しています。また、迅速で効率的な事務処理をすすめるために、「受付から処理までを一括管理する13区共有の受付管理システム」（写真左下）を構築したことも明らかにしました。

システムについては市民要望などをしっかりと受けとめ、スムーズに対応していくためには勿論のこと、いまの職員体制の中で力を集中したり、手助けをするためにもいいことだと思いましたが、実際には、この間、市民要望がスムーズに処理されていない事例もありました。私からは、道路補修要望が実現まで8日もかかった事例を示してどうしてこういうことになったのか検証せよと訴えました。

## 委員会のインターネット中継は6月議会から

市議会常任委員会・特別委員会のインターネット中継について22日、代表者会議のメンバーでテストを行い、カメラの配置などについて検討しました。質



【オオイワカガミ】イワウメ科。漢字で「大岩鏡」と書きます。近くの雑木林で咲いているのを見つけました。例年より4、5日早い開花です。吉川中学校近辺の山はゴールデンウィークの頃になると、この花だらけの「花さき山」になります。



『ローマ法王にコメを食べさせた男』で有名な石川県羽咋市職員、高野誠鮮さんの講演が24日、市内で行われました。中山間地再生に向け、「生産から加工、販売までやって儲ける」「山の植物は枯れても腐らない」などたくさんのヒントをもらいました。

問者も答弁者もちゃんと映るようになるのは難儀するようです。映し出された画像は思っていたよりも良く、まずまずでした。委員会の中継はユーストリームを使います。実際の中継は6月議会の委員会審査からとなる予定です。

インターネット中継により、議員は委員会での市民の立場で発言しているかどうか、発言力があるかないか、勉強しているかどうかなどが映像を通して市民に伝わっていきます。今まで以上に準備して委員会に臨まないといけなくなりました。がんばります。

# 春よ来い 第二五〇回 嫁泣かせ

「えっ、何だって、嫁泣かせ？」  
先週の土曜日のことでした。狭山の叔母の一周忌法要が終わったの帰り道、関越自動車道を通る車の中で、一瞬、耳を疑いました。大島区在住の従兄弟たちが、山菜のなかに「嫁泣かせ」というのがあると云ったのです。

従兄弟たちの口から出た「嫁泣かせ」という山菜の名前、小さな頃から山菜採りをしてきた私にとっては、興味津津でした。ノノバには白い汁が出るチチノノバと出ないアズキノノバの二種類あるということを知っただけでも驚いていたのに、今度は山菜の名前とは思えない「嫁泣かせ」の登場にもうじつとしてはいられません。従弟の話によると、「嫁泣かせ」は山の雪が滑り落ちる斜面に出て、二〇センチほどの若芽のうちに採ってきて食べるのだそうです。従弟は「お日様にあたるとけなけなしてしまおうが、おめたとこにもあると思うよ」とも言っていました。

私に母乳を分け与えてくれた板山のキエさんにも電話で訊いてみました。キエさんの話では、昔、婦人会時代に天ぷらをして食べたことがあるものの、最近採ってこないし、食べてもいないといっています。どんなものかについてはある程度覚えていて、陽に当てるとすぐにくたくたしてしまうので、採ってきたものの始末をしないで、おくと、姑や小姑の嫁いびりの材料になったのだと教えてもらいました。

ただ、ここまで話を聞いても、「嫁泣かせ」の姿かたちはなかなか想像できませんでした。こうなれば、どんなものか、実際に山の中に入り確かめるしかありません。数日後の朝早く、板山の従弟に頼んで自生しているところを案内してもらいました。従弟の軽トラに乗せてもらい、農道を行くと、じきに行き止まりでした。雪がたくさん残っていて進めなかったのです。そこからは、カメラとカメラを持って歩きまわりました。途中、板山から吉川区の石谷に抜ける古道を横切り、杉林を通って山を登りました。山の上の方は木々も芽吹き、草も緑色になりつつあるのが見えます。下の方はと言えば、まだ雪ががっちり残っていて、上部の雪が斜面と接するところでは大きな口を開けていました。この穴に落ちれば、簡単には上がってこれません。小さな木にかまったり、カマを急な斜面にくい込ませたりしながら、三百メートルクラスの山の上の方にたどり着きました。

山の斜面の上の方は雪が早く滑り落ち、春の植物がいち早く芽を出して地面を緑色に変えていました。そこから遠くを見ると、大島区の中心部、大平の家々が見えました。山の上部が独特の形をしている菱ヶ岳や板倉区の光ヶ原高原も見えます。

斜面で、すぐ目に入ったのはノノバです。私が大好きなチチノノバがあちこちにありました。また、アズキノノバも同じようにたくさんありました。そして、突然、「おい、あつたど」という声を聞きました。従弟が「嫁泣かせ」を見つけたのです。これだと教えてもらった「嫁泣かせ」は私が少年時代を過ごした蛸場の山で何度も出合ったものでした。葉はシソのような感じで、茎には白っぽい毛が生えています。

「これも食べられるのか」と思いながら、何度もシャッターを切りました。わずか一時間ほどの山歩きにもかかわらず、私は汗びっしょりになりました。山から下りながら、従弟が、「嫁泣かせ」について興味深いことを教えてくれました。何となく、「嫁泣かせ」は精力剤でもあるというのです。従弟は笑いながら言いました。「おらなんか、天ぷらにして食べれば、すぐ眠ってしまうでもさ」

## 日本共産党上越地区委員会、来月12日～14日、釜石市などで被災地支援活動

東日本大震災から2年がたちました。被災地では、いまでも支援の手が求められています。「義捐金や支援金は使い切ってしまった」「住宅再建は気が遠くなる

声も出ています。」「公営住宅に入ったら家賃がかかって大変だ」など、被災者は切り詰めた生活を余儀なくされています。そして何よりも、「被災地のことを忘れられるのが一番怖い」とい

う声も出ています。日本共産党上越地区委員会では12日～14日、お米と募金を持って釜石市、大槌町に支援に入ります。ご協力、よろしくお願ひします。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016～0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	4月17日(水)	4月24日(水)
上越南消防署	0.036	0.050
上越北消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.040	0.043
頸北消防署	0.040	0.040
頸南消防署	0.047	0.040
東頸消防署	0.040	0.050
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.055	0.056

### 「橋爪法一を囲んで山菜料理を楽しむ会」に参加して楽しいひと時を。

恒例となっている「橋爪法一を囲んで山菜料理を楽しむ会」を今年も開催します。

今年は昨年よりも雪消えが早く、すでにコシアブラ、タラの芽、コゴミ、ウド、ノノバは食べ頃になっています。

会では、私の議会報告の他、本の朗読やオカリナ演奏（出演は柏崎市のK&Sオカリナデュオ）も予定されています。農繁期ではありますが、ぜひお出かけください。お酒を飲まれる方は車では来られないようお願いします。

日時：5月5日（日）午後3時から

会場：橋爪牛舎脇広場（吉川区）

会費：1000円。お酒・山菜料理持ち込み大歓迎。持ち込み者は会費は無料です。

※事前の申し込みは不要です。

